—2023年東京・岡山歴史交流シンポジウム 4年連続開催—

第4回、定説への叛乱 in 岡山

古代日本の前方後円墳から天皇制まで
謎は吉備(岡山)からしか解けない

①楯築弥生墳丘墓と箸墓古墳は深く繋がっている?
②造山古墳の被葬者を考えると、宇佐八幡宮と応神天皇と桃太郎の謎に繋がる?
③鬼の城の築造命令者を斉明天皇から考えると、高尚玄理の謎に繋がる?

日時：5月6日(土)、7日(日)（2日間）
(11:00～15:30) (10:00～16:30)
場所：蔭涼寺：岡山市北区中央町10-28
(臨済宗) TEL 086-223-5853
JR 岡山駅東口、徒歩18分

〈呼びかけ人〉

(岡山) 古川克行氏、佐藤光範氏、出宮徳尚氏、山田良三氏、津曲真人氏、岡 将男氏、丸谷憲二氏、黒田晋、知恵氏、(徳島)山内雄二氏、(香川)大河内義雅氏、(東京)香川重善氏、平山牧人(代表) 他

(定員)：45名（先着順、予約なし）
● 会費：一般（一日2,800円）、二日連続（4,800円）
(前回出席の方、女性、81歳以上の方、学生、岡山県外の方割引します)

主催：同交流シンポジウム実行委員会（東京・岡山）
協賛：岡山歴史研究会、東京古代史研究会

シンポジウム実行委員会事務局：〒108-0023 東京都港区芝浦4-8-12-110 平山方
お問い合わせ：(TEL/FAX)03-3454-7753 岡山：090-2299-1021 津曲 方
ホームページ：https//senkodaishi.com

(2日間のタイム・テーブル　変更有)

5月6日(土) 11:00～15:30	5月7日(日) 10:00～16:30
(造山古墳の謎に迫る)	(楯築弥生墳丘墓と鬼の城の謎に迫る)
11:00 (進行説明) 挨拶　古川克行氏、佐藤光範氏	10:00 (進行説明)　挨拶
11:15 基調講演　出宮徳尚氏	10:15 基調講演 福本 明氏
12:10 昼休み	11:10 平山牧人 講演
13:10 岡山歴史研究会報告 山田良三氏	12:00 昼休み
13:20 香川重善氏　講演	13:00 岡山歴史研究会報告
14:00 岡　将男氏　講演	13:10 丸谷憲二氏 講演
14:50 自由発言	14:00 板野忠司氏 講演
15:00 総括 (翌日の案内)	14:50 津曲真人氏 講演
15:30 解散	15:40 自由発言
	16:00 総括(第5回シンポジウムに向けて)
	16:30 解散

ご協力の皆さん(順不同)

岡山：古川克行氏(岡山桃太郎の会事務局長)、黒田晋・知恵氏(岡山県郷土史家)、岡田 博氏(前古代吉備文化財センター)、出宮徳尚氏(前岡山城天守閣専門員)、佐藤光範氏(岡山磐座研究家)、高木寛治氏(総社市磐座研究家)、合田憲隆氏(本隆寺住職)、津曲真人氏(熊山研究会)、小藪誠司氏(玉野市)、岡野進氏(熊山研究会会長)、谷山雅彦氏(総社吉備路文化館館長)、中西 厚氏(大廻り小廻り研究家)、丸谷憲二氏(吉備国の語り部の会会長)、福本 明氏(岡山理科大学特任教授)、板野忠司氏(秦歴史遺産保存協議会)
岡山他地域：香川重善氏(善通寺文化財保護協会会員)、河野 博氏(三豊市アート田んぼ主催者)、品川 清氏(大阪吉備歴史研究家)、松川忠嗣氏(日本桃太郎の会会長)、岩崎純一氏(日本大学芸術学部非常勤講師)、菊池秀夫氏(九州研究家)、川副秀樹氏(東京神社研究家)、前田 豊氏(東京古代史研究会名誉会長)、室伏志畔氏(幻想史学の会主宰・大阪)、下枝広明氏(渡来人研究の会主宰・札幌)、山内雄二氏(徳島県歴史研究家)、大河内義雅氏(善通寺郷土館所長)

後援：(岡山)秦歴史保存協議会、本隆寺(日蓮宗)、東京吉備(岡山)歴史研究会、岩崎純一学術研究所(IJAI)

テーマ・内容紹介(順不同)

不滅の挨拶

古川克行 氏	おかやま桃太郎の会事務局長、元山陽放送	

今岡山では「吉備」の繁栄ぶりを示す史跡の発掘や整備が進む。直弧文の石障が美しい千足古墳は復元が完成。全国第四位の規模を誇る造山古墳も岡山市が復元整備に着手する。弥生最大の墳丘墓の楯築遺跡は、倉敷市が遺跡内の給水塔の撤去を表明。しかしそれらの真価や魅力を伝える努力がなされているとは思えない。このシンポジウムは四回目を迎えるが、地道な試みをもっと評価すべきと思う。定説への叛乱に期待する。

佐藤光輝氏	郷土史研究家、岡山県磐座研究家	

不滅の講師陣

出宮徳尚 氏	古代吉備国を語る会会長	「吉備出自の倭国大王を探る」

中国の皇帝政治を範にした我が国の古代国家は、天皇を頂点とした統治体制を成立させ、天皇の絶対的存在のため神聖不可侵の万世一系の天皇制を制定した。天皇の前身たる倭国大王の系譜は、3段階の系統をもって展開しており、大王(天皇)の系脈の王子(皇子)に吉備関係者が少なくとも5人はいる。5人の王子の系脈を精査すると、一系外で抹消された吉備出自の大王の存在に辿り着くことができ、そのキーパーソンが「吉備兄彦皇子(吉備之兄日子王)」である。

福本 明 氏	岡山商科大学特任教授	楯築弥生墳丘墓とその時代

楯築弥生墳丘墓が今、再び注目されている。一昨年、主体部の発掘調査から半世紀を経て詳細な発掘調査報告書が刊行され、長年の懸案であった墳丘の復元整備がいよいよ始まろうとしている。この時期に改めて、楯築弥生墳丘墓の立石や弧帯体文石、特殊器台、大柱などを用いた墳丘上での祭祀とはどういったものであったのか、さらに前方後円墳の成立にあたって楯築弥生墳丘墓が及ぼした影響とは何か等々、楯築弥生墳丘墓のもつ歴史的意義について問いなおしてみる必要がある。

岡 将男 氏	楯築ルネッサンス	造山古墳は応神天皇陵か、高句麗の背後の三燕との関係を考察

応神天皇が高句麗好大王と交戦した時期、造山古墳など前方後円墳が巨大化したのは、中国大陸に比べて倭国が比較的平和であった象徴だろう。この4年半、「資治通鑑」の現代語訳を69巻から160巻まで通史でやる中で、高句麗の背後にいる前燕、前秦、後燕、北燕、北魏などの国々との遠交近攻の外交交渉を知ることができた。最近の遺伝子分析では、古墳時代中期に大陸から秦氏など大量の移民が来たことが証明された。今回は古墳時代基礎知識篇。

丸谷憲二 氏	黄蕨(きび)の会会長、吉備国の語り部の会会長	『地名学では邪馬台国は岡山です』

『魏志倭人伝』には邪馬台国の場所は書かれていません。太伯・長沼・岩神が卑弥呼と登与の生誕地です。邪馬台国を太伯と記録しているのは『日本書紀纂疏』・『魏志倭国伝』・『翰苑』です。黥面発見と太伯地名は邪馬台国の最低条件です。『地名学では邪馬台国は岡山です。』説を発表し岡山県内各地を巡回講演しました。瀬戸内市中央公民館での講演がユーチューブで公開されています。卑弥呼の邪馬台国と大和朝廷は、伊勢神宮斎宮で完全に繋がりました。

津曲真人 氏	楯築ルネッサンス 理事 熊山遺跡研究会 理事	卑弥呼は二度葬られた

講演に当たり主催者から卑弥呼の墓について注文がついた。それも吉備国内でという。定説への叛乱がこの会の主題である故の理と素直にお受けした。楯築弥生墳丘墓以外で卑弥呼が葬られた可能性のある遺跡は限られている。

特に鬼道に繋がる古代の磐座の存在と楯築遺跡から見通せる場所が鍵となるはずだ、この条件をクリアできるのは一箇所だけある。しかしそこには巨大な。。そうか卑弥呼は二度葬られたのだ、二度目の墳墓はあの有名な箸墓古墳だ。

板野忠司 氏	秦歴史遺産保存協議会・岡山歴史研究会・岡山歴史楽修塾所属	京都の秦氏と吉備の秦氏の史実解明に考古学的実証のアプローチを

秦氏をめぐる考古学的エビデンスは、極めて乏しい。これまでに学者、小説家、郷土史家などが、記紀等の文献を創作であるとか、京都中心から全国に氏族が拡大したとか、渡来元も朝鮮半島・中国・西南アジア・イスラムとか、渡来人と地元民との争いは無かったとか、様々な見解で混乱している。果たして史実は、どうなのか? 京都に比べ、吉備の秦氏の解明は未熟で、専門家の科学的研究、とりわけ考古学的調査が不可欠である。古墳調査等で吉備の秦氏の先進性が判明する可能性あり。

平山牧人	東京古代史研究会会長、定説への叛乱シンポジウム呼びかけ人代表	記紀の編者と天武天皇は熊襲で、敵邪馬台国吉備の真実を封殺した

記紀の編者と天武天皇は熊襲で、邪馬台国吉備を仮想敵として暗号化し(倒語・遁甲)を用いて偽造記事を書いた。◐温羅伝説の創作者は栄西禅師で、出身の加夜氏は熊襲建の直系であろう。だから、創建時吉備津神社は邪馬台国吉備に結界を作って封じるために築造されたと思われる。◐鬼の城の築造命令者は斉明天皇で、設計したのは高向玄理である。◐今私は、宇佐家古伝書と吉備との関係を調べている。すると造山古墳の被葬者の謎、桃太郎伝説の謎と宇佐家が深く関りのあることが分かってきた。

香川重善 氏	国際開発研究者協会講師 善通寺市文化財保護協会会員	讃岐の安山岩(サヌカイト)の産出と古代遺跡・造山古墳の謎に迫る

古代吉備の大王の眠る「造山古墳」2022年の発掘調査で香川県産の讃岐安山岩の板石が出土した。列島第4位の前方後円墳(5世紀前半)吉備王の権力を誇示する存在である。大和王権が主導し形状寸法が権威の象徴なら正確さと施工監理に謎。吉備と讃岐安山岩の連携も謎。造山古墳前方部墳頂の長持形石棺(五世紀後半)と讃岐観音寺丸山古墳(刳抜式石棺・5世紀中頃)には九州阿蘇石が運ばれ、瀬戸内海を通じた讃岐と吉備、九州の古代史の謎が注目である。

谷山 雅彦氏	現総社吉備路文化館館長 元総社市教育委員会文化課長	鬼ノ城の敷石と石敷について

古代山城の「鬼ノ城」では石が多用されている。城壁は土塁と呼ばれる土を突き固めたものが中心であるが、この城壁に沿って敷石が施されているため石が目立つ。「鬼ノ城」では城壁に伴うものを敷石、門道に設けられた石を石敷と区別している。敷石は城壁の内・外に認められ、場内側では数段に施されている場所も確認されている。その状況から明らかに敷石は城壁保護のためのものである。敷石総面積は1万㎡を超え、古代山城では日本一の広さである。(紙上参加)